

事長が、挨拶。最後に、地元夕張の平和団体「明日の平和をつくりだす夕張の会」共同代表の内田暁風さんが、「夕張の署名は1741筆になりました。また、本日後1時半よりソンプジャさんの講演を『ゆうばり女性9条の会』と共催で開催します。どうか、参加ください」とあいさつしました。軽トラックには、政党のノボリ旗や各地の平和団体の旗が何本も立ち並び、目を引きました。さらに、すぐ近くを車両で移動中の自衛隊のみなさんに、司会者から「自衛隊員



のみなさん、いつもご苦労様です。決して戦場へは送らないために私たちは活動しています。豪雨災害で困っている被災地などがんばってください」との訴えがありました。その後、栗山町・由仁町・長沼町・南幌町と回って、トラックキヤラバンは終了しました。

くずさんの 夕張歴史散歩(92)

明治維新 「堀基」と北炭 ③ 9

村田と示談成立

北有社の村田との間で、幌内・幾春別鉄道の運輸請負などの権利返還の話し合いがすすみ、高額の譲渡価格と示談金三十万円で談合は成立します。同時に、村田が持っていた夕張炭鉱の試掘権(約七五万坪)も譲渡されます。

こうして村田が北海道から委託されていた諸権利を全て手放し返上させました。その上で堀は、その全てを道庁に払い下げを申請するのです。

堀の新会社構想

堀の構想は、「道庁から払い下げされた鉄道と炭山をもとに、六五〇万円の資金を募集しそのうち五〇〇万円を鉄道敷設に、一五〇万円を炭鉱開発に充て、鉄道を軸にして全道の開発を促進する」というものでした。この構想実現のために、新会社設立に動きまします。いよいよ「赤レンガ主」といわれ「北海道副王」とよばれた、堀の大物ぶりが発揮されます。

舞台は東京へ

1889年(明治22年)6月、堀は東京に飛び、時の総理大臣黒田清隆を訪ねて会社設立の計画を報告し一連の払下げの内諾を取りつけます。黒田の支持をよりどころに各大臣への歴訪、実業界への工作に走りまします。さらに公爵三条実美*を訪問、宮内省への働きかけ皇室、皇族・華族からの投資をも取り付け、三条からも三百株の引き受けを得ることに成功します。こうして払い下げや会社設立についての、おおよその下準備は出来上がりまします。

*三条実美は、第二代総理大臣黒田清隆が去り、次期の山県有朋が決まる間の2カ月間、内大臣兼務で総理大臣を務める。



畠山和也「かけある記」
前衆議院議員

畠山和也

離れているのは政治のほう

先週は本別町と紋別市での議員選挙応援から始まり、稚内市や幌延町・遠別町・羽幌町で表敬訪問や懇談、留萌市では豪雨被害での調査もおこないました。札幌に着いて総距離数は約千キロ。札幌から直線距離で静岡県まで行った計算です。多くの方のお力があったて、移動や懇談もスムーズに進みました。紙面を借りて感謝を申し上げます。

行く先々で農作物への影響が心配との話を聞きました。日照不足や大雨被害の対応に追われ、酪農地帯では「今年は牧草が足りなくなるのではないか」と心配の声も。加えてTPPや、EUとのEPA(経済連携協定)で「また農家は大変になる」と、ある農協役員の方は「野党にがんばってほしい」と激励もしてくださいました。

政府・与党はカジノ解禁法案を強行に成立させました。どこを回っても「大雨被害がひどいときに、どうしてカジノなの」と疑問や批判の声。原発やJR北海道のことと合わせて「高橋知事は何も言わないものね」との話が出たのも特徴的でした。羽幌町では、天売島・焼尻島へのフェリーや高速船を維持するための苦労とともに、町役場では「生活物資を運ぶ航路も、国道と同じ意味があります」との話も聞きました。私の母の実家も宮城県の高橋で、子どもたちのころは「なんで離れた島に住んでいるのか」と思っていたものでした。離れているのは島ではなく政治のほうだと、つくづく今は感じます。

参院選まで、あと一年。引き続き道内各地をうかがいます。